

しなののうた

巡りくる七年ごとの御開帳
回向柱に触れて安らぐ



杉田小百合

しなののうた

時を超え中日庭儀の大法要あの世この世が回りきたりぬ

杉田小百合



しなののうた

貫主撒く五色の散華舞い舞いてそのひとひらが肩に止まるる



杉田小百合

しなののうた

松風に五色の旗が翻り詣でる人らの頭上をわたる

杉田小百合



しなののうた

厳かに雅楽奏でる列つづき夢心地して雅にひたる



杉田小百合